

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース  
(保健体育) / 湯口 雅史

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

目標: 研究活動スタート支援の公募に申請する。  
テーマ: 小学校体育授業における熟達教師の見取り関する事例研究-授業中の子どもを見取る教師視線に着目して-  
計画: 附属小教員との共同研究とし、実践を通して分析を試みる。

#### 2. 点検・評価

本年度は、研究活動スタート支援の公募申請を行い、「A」評価をいただいた。しかし、残念ながら不採用であった。来年度は、教育実習と体育科教育を関連付けた研究計画を考えていきたい。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

目標: 大学院で学ぶことのよさを、機会あるごとに説明していく。  
○公立校に研修等で出向いたとき、また、小中各体育連盟の会に出席したときなど、挨拶、雑談の中で大学院で学ぶことの良さや意義を説明する。  
○今までにおいても、研究大会校での研究推進者は、大学院で学んだことが生きているということを声を大きくして説明してきた。これからも、伝えていく。  
○何人かの先生から、大学院進学への相談を受けている。本学の現状と期待を真摯に説明する。

#### 2. 点検・評価

本年度は、徳島県内の小学校へ出前授業に行かされたもらった。その中で、校長先生や教頭先生との会話の中で、これからの教員に必要な修士レベルの力の話を切り出したり、長期履修制度の話題を出したりと、これからの大学院と現場との連携の必要性を話した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

目標: 実地教育分野において、教師としての資質能力を高めるべく、附属校との連携を密にして取り組む。  
計画: 附属校との連絡を密にし、大学と附属校が連携をとって、一人一人の学生に応じたかわりを行う。

#### 2. 点検・評価

教育実習の質の充実を目指して、本学の教育実習の在り方を検討し、来年度の教育実習に反映できるように準備を整えた。また、附属校との連携と密にし、何かコトが起きたり、実習に対する相談事に関して、連絡を取り合える人間関係の構築を図った。また、教育実習期間には、学生の出校時には附属校へ行き、学生の表情を見ながら個々に関わることができた。さらに、実習期間中、平日は夜9時まで学内に残り、学生の相談にいつでも対応できるようにしていた。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

目標: プロジェクト「高度な専門職業人の要請や専門教育機能の充実」の推進  
計画: ○教育実習において、培う力の洗い出しと、実習生の自己評価による力の獲得状況の把握  
○教育実習への参加要件に関する評価項目の洗い出しと、評価基準の設定。

#### 2. 点検・評価

教育実習の質の充実プロジェクトを1年間推進し、中間報告書にまとめた。その中で、実習参加時には、授業力だけでなく教育的人間性の高まりも学生自身に自覚させなければならないことが明らかになった。また、来年度は、教育実習ルーブリックや教育実習の体系化の整理、検討等の課題も明らかになった。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

目標:1年目ということもあり、大学の中での自分の位置を把握する。  
計画:実地教育担当教員としての職務を理解する。

### 2. 点検・評価

教職キャリア支援センター勤務の実状と業務内容を理解することができた。他大学と比べ、本学の教育実習のオリジナリティの弱みを自覚し、焦りを覚えている。まずは、本学の教育実習を充実させるよう取り組んでいきたい。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

目標:附属学校の教諭(体育科)との研究推進  
計画:附属学校の研究内容を理解し、情報提供しながら実践研究を行う。

### 2. 点検・評価

教育実習担当ということもあり、附属校との連携を密に行った。11月3日に開かれた、附属小学校オープンスクールにおいて、5年生の体育授業を実践公開させてもらった。保護者からも、大学の教員が実際に授業を行う様子を見て、附属校らしいという良い評価をいただいているということを聞いている。さらに、県教育委員会体育学校安全課からの依頼(体育授業はつつサポート)を受け、県内各地23校への出張授業を行った。本学が推進している教育支援アドバイザー事業に関しても、8校へ出向き授業、助言を行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

主免教育実習、教員インターンシップの教育実習に関して、鳴門市内の協力校への対応を一本化することができた。長期履修学生の主免教育実習、4年次生の教員インターンシップは、9月同じ時期に実施される。その際、協力校の現場は同じ時期に違う目的の学生が実習に参加するため、混乱が起こっていた。これは、長期履修側から、学部側からと別々に行っていたため、この混乱をより複雑にできてしまっていた。その反省を踏まえ、来年度は、鳴門市内に関しては長期履修の主免教育実習と4年次生の教員インターンシップとを同じ時期に、一つの窓口からお願いするようにして、混乱を避けようとしている。その際、長期履修関係の教員と学部関係の教員との連携が必要であり、話し合いの場を設けるなどして連携の強化を図ることができた。